

令和7年度 小林市立小林小学校 学校関係者評価書

4段階評価(4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する)

一人一人の思いを受け止め励ましながら「賞賛・承認」と「心に響く導き」により、自分に自信をもち、自ら考え行動できる子どもの育成を図るとともに、保護者・地域との協働による教育活動を通して活気あふれる学校をめざす。
～みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校～

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
知育	<p>■目標 主体的な学びと確かな学力の定着</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>① 「分かる・できる」授業による学力向上を図るため、児童主体の授業の創造や根拠もとに説明できる授業への転換を図る。</p> <p>② 家庭学習と読書活動の充実を図る。</p> <p>③ 一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実を図る。</p>	<p>○ 今年度は算数にしばって研究を進めたことで、学年で研究に取り組みやすくなり、「主体的・対話的で協働的な学び」の実現に向けた授業改善が図られてきたと考えられる。この改善が、きちんと児童の学力向上へとつながったのかCRTテスト等で分析する必要がある。</p> <p>○ タブレットPCの日常的な活用はかなり進んできている。日常的な活用ができていない児童の増加、タブレットPCの雑な扱い方などが気になってきた。情報モラルについての指導を丁寧に行いルール徹底を図っていく必要がある。</p> <p>○ 読み聞かせが充実しており、子どもたちが楽しみにしている。また、家族読書についても、取り組んだ家庭が多く、家族での読書を啓発する上でも、この取組は意義がある。今後は、教育課程の中にも「読書」が組み込めないか検討できればと考える。</p> <p>○ 特別支援教育については、夏季休業中の研修およびOJT研修において学ぶことができた。また、ケース会議や部分会などにおいて、個々の児童についても話し合う時間をもつことができ、特別支援学級担任や通級担任と学級担任が連携を図ることができた。</p>	3.2	3.2	<p>○ 本年度の全国学力学習状況調査の結果が報道されました。現在の教育現場では、教えるべき内容の増加、子ども・教師の多忙化など課題が山積しています。そのような環境のもとでも、学年に応じた確かな学力を身に付けさせるために自己研鑽に努めていただきたいと思います。</p> <p>○ 基礎学力定着のための読み、書き、計算の反復学習の時間をきちんと確保した授業を取り入れるなど、学力の向上の方策について更に全校、学年、個人で研修に努めたいと思います。</p> <p>○ 主体的な学びと「分かる・できる」の授業によって確かな学力向上につながります。そのためには教材や活動内容の工夫が必要です。</p> <p>○ 算数を中心に研修や研究授業に取り組みされたことは意義深いことだと思います。その上でCRTの結果を十分に分析して学力の向上を確かな学力の定着に向けた指導法の改善を図っていただきたいと思います。それとともに児童の家庭学習の在り方についても学力向上につながる助言をお願いしたいと思います。</p> <p>○ 子供たちの学力向上に対して先生方の授業研究などへの取り組みは評価する。しかしながら家庭での学習に対する考え方、環境次第で大きく左右する。自ら机に向かう習慣が定着することが望ましいが、現社会においてはなかなか難しいかもしれない。デジタル社会である中において便利になりつつもゲーム、動画などの誘惑も多い。学習定着にしても、読書にしても家庭での時間の過ごし方が重要になると思う。今後学校と家庭とが連携し、スマホやインターネットのルールガイドラインを設定するなど対策が必要であると考えている。</p> <p>○ タブレットPCの活用は学びには、もちろん、今後の生活にとっても役立つがルールについては徹底して指導してもらいたい。</p> <p>○ タブレット活用が進む中、本来の活用ができていないか再検討が必要です。</p> <p>○ タブレットを活用できることは活気的ですが扱い方についての指導もしっかりと行ってほしいです。</p> <p>○ 概ね期待通りであった。タブレットPCの日常的な活用が進んだことにより慣れが生じてきて、扱い方が粗雑になってきていると伺っている。</p> <p>○ タブレットPC中心の学習がメインになってしまうと「書く」作業が減ることで、筆記能力や学習能力が低下するのではないかと私個人的に心配するところがある。また、ディスプレイを長時間注視することによる視力低下も懸念されるので、しっかりとバランス取りながらICT活用していただきたいと思います。</p> <p>○ 読み聞かせはたいへん良い取組です。家庭で読書に親しむ習慣がもてるようになるとよいですね。</p> <p>○ 家庭読書の取組は読書離れが進んでいる現在、本に親しむという点で意義があると思う。</p> <p>○ 図書サポート委員会(くすのき文庫)の皆様による読み聞かせが充実しており、子どもからも喜ばれており大変すばらしい取り組みだと思ふ。たくさんの保護者にも気軽に参加できる体制にできたらと思っている。</p> <p>○ 読書に関して語彙力、読解力、想像力、集中力を成長させる効果がある。低学年、中学年、高学年とカリキュラムを分け、計画的に読書をする習慣を身につけさせていくことも必要かと思う。</p> <p>○ 本年度から高学年を対象としたチーム担任制が導入されましたが、導入の意義を全職員で共通理解・共通実践されて、子どもたちの学習活動や校内活動が更に充実するように期待しています。</p> <p>○ チーム担任制の振り返りをしっかり行い、よりより学校づくりにつなげてほしいです。</p>

<p>徳育</p>	<p>■目標 互いを認めよい行いを実行する力の育成</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>① 自尊感情と学校愛を育てるために、人権教育の視点に立った指導の充実と児童自ら学校をよりよくしようとする自治活動の充実を図る。</p> <p>② 家庭と連携した基本的生活習慣(特に「返事」「あいさつ」「整理整頓」)の徹底指導を行う。</p> <p>③ 問題行動、いじめ・不登校へ即時対応と納得感のある解決を目指す。</p> <p>④ 地域組織を生かした教育の活性化</p>	<p>○ こすもす科の「みんなで話し合おう」の時間を活用して、2回自治活動を実施し、4年生以上の児童が主体的に課題解決する時間を設定し、実践することで「自分たちの学校を…よりよくする」意識が高まった。</p> <p>○ 行事を活用した「返事」の指導や生活委員会やPTA生活育成部のあいさつ運動による「あいさつ」の指導および生活委員会による全校集会での清掃指導などを通して、基本的生活習慣の指導を折に触れ実施し、児童に定着しつつある。</p> <p>○ こすもす委員会での情報共有や関係機関との連絡会を設定し、全家庭で外部機関とつながることができた。しかし、全てが改善されたとは言い難い。今後、さらに連携を強化し、改善を図っていった。</p> <p>○ 各学年で必要に応じて地域人材を活用した学習を設定し、学びを広げることができた。教師の負担感につながっているケースも見受けられるため、活動の目的を見直し、活用のは非を学年部単位で吟味し、次年度の活用につなげていく。</p>	<p>3.2</p>	<p>3.3</p>	<p>○ 「自分たちの学校をよりよくする」ことを学校全体で意識し、自治活動を実施したことはとても良いことだと思います。身近な所からよりよくする気持ちをもつことで地域や国をよくすることを意識できる大人に育ててほしいです。</p> <p>○ あいさつについては、まだまだ充実したとはいえないので、定着にむけて家庭と連携してもらいたい。</p> <p>○ あいさつ等基本的な生活習慣は生活していく上で欠かせないことなので、これからも指導の継続をお願いしたいです。</p> <p>○ 子どもたちが自ら考え「基本的な生活習慣」が身に付き行動できるように学校・家庭・地域の連携が必要です。</p> <p>○ 不登校には様々な原因が考えられるが、今後の生活に影響が残らないようにあせらずに慎重な対応をしてもらいたい。</p> <p>○ いじめ・不登校児童への対応については、全職員で取組が確立していることはありがたいことです。様々な事情で、学校に行けない時期があるのはやむを得ない面があると思います。ただ、学校生活は、多様な個性をもった友人と交流して、協調性や社会性を育てるための重要な場であることを保護者にもきちんと説明して、楽しく学び・仲良く遊ぶ場にしていただきたいです。</p> <p>○ 先生方が指導しやすいように周りの理解が必要であり、それが子どもたちにとってよりよい学校生活を送れる事につながります。</p> <p>○ 児童自ら積極的に朝のボランティア活動やあいさつ運動をやっている姿を見て、感動した。また、まちづくり協議会の絶大なサポートにより、シン小林小まつりでの体験授業・地域活動、6年生の校内キャンプなど地域に根ざした活動ができたと思う。</p> <p>○ 徳育は集団生活の中で最も重要な教育であると思う。その中でも何より挨拶は基本中の基本であり、徹底指導を行っていく必要がある。しかしながら、家庭での連携は必須であり、学校教育だけでは無理だと考える。大人でも自ら進んで挨拶を出来る人は少ないかもしれない。学校、家庭、地域で取り組んでいけたらと思う。「ありがとうチェック」など、ありがとうを言ってもらった回数を集計しても面白いかもしれない。自然と相手を思いやる心が身につくかもしれない。</p>
-----------	--	--	------------	------------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	結果の考察・分析及び改善策等
<p>体育</p>	<p>■目標 体力向上と安全・健康への意識向上</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>① 昼休みの運動・遊びの充実を図るとともに、自らの課題に取り組む体育・健康指導の充実を図る。</p> <p>② 自ら意識する立腰姿勢の常時指導を行うとともに鉛筆の正しい握り方達成状況80%以上を目指す。</p> <p>③ 手洗い等感染予防の徹底を図るとともに、う歯治療率70%以上を目指す。</p>	<p>○ 本年度も体力テストを全校縦割り班で実施したが、測定の方法によって正確な数値が記録できていなかったり、班によって終わる時間に差が出たりしたため、来年度からは縦割り班での実施ではなく、各学年ごとの実施に変更する。</p> <p>○ 授業開始、終了時など全校で統一して立腰指導の徹底を図ったことで、落ち着いて話を聴く態度や学習規律が身に付いていった。</p> <p>○ 日々の授業の中で、正しい鉛筆の持ち方について常時指導を行っている。1月のアンケートの結果を見ると8割以上の児童が正しい鉛筆の持ち方ができてきていると回答しているが昨年度と比べ定着率が下がっており、継続した指導が必要であると考えます。</p> <p>○ 小中連携の取組として、むし歯治療率向上に取り組んだ。昨年のむし歯治療率61.9%から今年度は、47.2%(1月)と治療率が目標値には達していないために家庭との連携を図りながら、今後も粘り強く呼びかけを行っていく。</p>	<p>2.8</p>	<p>3.1</p>	<p>○ 体力は目標値に届いていないので今後の努力に期待する。</p> <p>○ 体力向上には昼休みの過ごし方の工夫等が必要です。</p> <p>○ 体力テストはその年々の体力チェックなので誤差がないように正確さをもって実践していただきたいです。学年ごとがよいかと思います。</p> <p>○ 体力向上は健康と密接でありとても重要であると考えます。楽しく毎日続ける事が一番であると思うが、なかなか厳しいと思う。特に低学年時には体を動かす事が好きになる事、中学年時にはルール理解、持久力向上、高学年時には体力UP、チームワーク等の課題を明確化し、取り組むのも良いかと思う。縄跳びは体力向上の全ての要素をカバー出来るので「なわとび運動」は素晴らしい取組みだと思う。ぜひ継続してほしい。</p> <p>○ 近年の子どもは、日常的にスマホ・タブレットを見たり、ゲーム機などで遊ぶなど、外で遊んでいる姿が見られなくなった感じる。その影響で体力も落ちているのでないかと考える。当然ながら親の責任でもあるが、学校側からも体を動かすようなきっかけ作りなど子どもたちに指導してほしい。</p> <p>○ 立腰指導の成果だと思いが、授業参観時でも落ち着いて学習できている。</p> <p>○ 立腰指導の成果は素晴らしいです。</p> <p>○ 正しい鉛筆の持ち方指導については効果が出ています。これからも継続が必要です。</p> <p>○ う歯治療向上について目標値には届かなかったが、前年より数値は向上したことは良いと思う。う歯にならない日常生活の送り方などセットで取り組むと尚、う歯に対する意識も身につくと思う。又、家庭での取り組みここが一番重要と思う。</p>

食育	<p>■目標 望ましい食習慣と食への感謝の心の育成</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>① 栄養教諭を中心とした食への関心を高める指導と地域人材・食材を活用した食の指導を行う。</p> <p>② 発達段階に応じた「弁当の日」への積極的な取り組みとともに食に関わる人へ感謝する活動を積極的に行う。</p> <p>③ アレルギー等への確実な対応と衛生管理を徹底して行う。</p>	<p>○ 栄養教諭が給食の時間にはしの持ち方指導を行ったり、学級活動で授業に入ったりすることで、食育の充実が図られた。また1月の給食感謝集会で、給食センターの方々の様子や給食に関わる食材(地産地消)などを紹介し、食に対する関心を高め、残菜を減らす取組も実施することができ、残菜減につながっている。</p> <p>○ 家庭との連携を図り、本年度もタブレットにワークシートを配付し、タブレット端末でもまとめられるよう工夫したため、保護者の弁当の日に対する関心も高く協力的であった。</p> <p>○ 今年も校内で食物アレルギー事故は0件だった。学校と保護者、担任と児童との確かな連携・確認の体制がしっかりと取れていることが結果として表れている。今後もしっかりとした連携と、コンテナ室でのダブルチェックを行っていく。</p>	3.2	3.6	<p>○ 子どもたちを守るためには学校・家庭・地域との連携が必要であり、「命」の大切さも伝えるような取組を進めると良いのではないかと。</p> <p>○ 給食指導により残菜率が減っているのは嬉しい。また、「弁当の日」は続けてほしい。</p> <p>○ 小林は農業の街なので子どもたちが誇りをもっているように地産地消の考え方を児童に教えてほしい。</p> <p>○ 給食センターの様子や地産地消の紹介など良い取組がなされています。</p> <p>○ 高度肥満の改善と予防は家庭と連携した食育指導が必要です。</p> <p>○ 食への関心、育成のために様々な取組をされ、その成果が見られて嬉しいです。今後も更に継続してください。</p> <p>○ 将来的にまちづくり協議会の方と一緒に郷土料理の作る教室なども企画してもいいかなと思っています。</p> <p>○ 食育は健康、体力、心を育てる成長期には最も重要であると思う。学校で様々な食への指導が取り組まれており良いと思う。特に「食への感謝の心の育成」という目標は人の生きていく中で、子供に限らず大人もしっかり理解していく課題であると思う。日本がいかに恵まれているか世界の食事の現実等加えて子供達に伝える事も必要であると思う。</p> <p>○ 「弁当の日」の取組は「食」に関心をもち残食の減少にもつながります。</p> <p>○ 「弁当の日」の取組も食に関しては家庭との連携が大事です。いろいろな工夫により保護者の関心が高まることで児童への食育につながりますね。</p> <p>○ 残菜率も改善され、またアレルギー事故もなかったことで、日頃の指導に感謝いたします。今後も安心安全な給食を提供していただけるように、よろしくお願いいたします。</p> <p>○ 食物アレルギー事故がなかった事は良かったです。</p>
次年度の方角性についての校長所見	<p>全 体</p> <p>知 育</p> <p>徳 育</p> <p>体 育 ・ 食 育</p>	<p>児童を対象にしたアンケート調査では、「学校に行くのが楽しい」と答えた児童が、昨年度の81%から今年度の78%へやや減少したことは、反省すべき点である。教育活動全体を「子ども達にとってどうか」という視点で見直し、家庭とも連携しながら学校運営を行っていく必要がある。地域との連携については、小林小まちづくり協議会を中心に、関係機関と連携を図り、さらに充実した教育活動を目指していく。</p> <p>児童が主体となった「分かる・できる」授業改善を目指すために、本年度は算数科を中心に全職員で研修を重ね、一人一研究授業にも取り組んだ。しかし、CRT学力検査においては、学年によって差が出た。検査結果を分析するとともに、よりよい授業改善に向けて、研修の在り方を改善していく必要がある。くすの木文庫の方々の協力により、毎週月曜日に読み聞かせ活動を行っていただいた。次年度も引き続き協力をお願いするとともに、教育課程内でも読書活動の充実を図っていきたい。</p> <p>「自分たちの学校のことは自分たちで考え、よりよくする」ことを児童及び職員に訴え、自治活動の充実を図った。次年度も引き続き行うとともに、実践できているかどうかの検証も自分たちでさせていきたい。不登校児童への対応については、関係機関と連携しながら行ったが、改善が図られたとは言い難い。次年度は、定期的なケース会議をもとに、よりよい改善を目指していきたい。</p> <p>立腰指導については、特に授業開始と終了時に全校で統一して指導の徹底を図ったことで、少しずつ定着が図られるようになった。う歯治療率については、昨年度に比べて下がってしまった。養護教諭・学級担任を中心に更に工夫した取り組みが必要である。栄養教諭や給食主任を中心とした食の指導の充実により、残菜率の低下や弁当の日の取組が積極的に行われた。食物アレルギー児童への対応も適切に行うことができた。</p>			